

**発達に即応した教育課程の編成 「動き」に視点を
当てた生活単元学習の展開 : (生活単元学習指
導計画)**

著者	鹿児島大学教育学部附属養護学校
雑誌名	研究紀要
巻	3
ページ	1-182
URL	http://hdl.handle.net/10232/00008485

3. 今後の課題

本校では、昭和55年から、小・中・高一貫した教育課程の編成をめざして、発達に即応した教育課程の編成」という大テーマのもとに教育課程づくりとその実践研究を進めてきた。昭年56年度と昭和57年度の二年間は、「動き」という視点から生活単元学習指導計画の改訂とその実践研究を行った。

この二年間の研究成果についてまとめてみると、子供たちの欲求、興味・関心などを大事にしてきたせいか、どの子も前に増して明るく、伸び伸びとしてきているようである。そして、休み時間では学部を越えて小・中・高の子供たちが一緒になって遊んでいる姿も見られるようになった。また、いろいろな場面に自ら働きかけ積極的に活動しようという態度の表われている子供も出てきた。一方、教師の方も、子供と共に活動する中で、子供の気持ちを大事にし、そこから学習の組み立てをしようという態度が強くなってきたようである。しかし、今後に残された課題も多い。以下、主な課題を挙げてみると次のようになる。

- (1) 一般化された諸検査が適用できない児童・生徒の実態はどんな方法でとらえたらよいかを明らかにする。
- (2) 「動き」の考え方を深め、更に分析的な研究を進めていくようにする。
- (3) 一人ひとりの動きのわかる指導案の改善を図るようにする。
- (4) 実践を通して一人ひとりに焦点を当て、子供の変容を適確に把握できるようにする。
- (5) 生活単元学習の各々の単元ごとの実践を深め、充実を図るようにする。
- (6) 指導計画作成の段階で、単元構成のしかたについて充分検討していくようにする。
- (7) トピック単元を取り上げた場合は、実践記録を残すようにし、将来の活用に備えるようにする。

<主な参考文献>

1. 教育研究紀要 第1集 教育課程 昭和55年度 鹿児島大学教育学部附属養護学校
2. 研究紀要 第2集 発達に即応した教育課程の編成（「動き」を生かした生活単元学習の展開） 昭和56年度 鹿児島大学教育学部附属養護学校
3. 実践 生活単元学習 小出進責任編集 学習研究社
4. 重度障害児へのムーブメント教育理論適用による実践的研究 昭和55年度 国立特殊教育総合研究所長期研修成果報告
5. 精神薄弱児指導の原理と方法 松岡武編著 東洋館出版社
6. 精神薄弱児の機能訓練 半場正信著 学芸図書K・K
7. ムーブメント教育 フロスティグ著 小林他訳 日本文化科学社
8. 盲学校、聾学校及び養護学校学習指導要領 昭和54年 文部省
9. 養護学校（精神薄弱教育）学習指導要領解説 1974 文部省